



旧渋沢邸

清水建設と渋沢栄一翁とを結ぶ意義深い建物である旧渋沢邸を、後世へと継承するべく、当社の手で仲かりの深い江東区の当社敷地への移築計画を進めています。



旧渋沢邸



旧渋沢邸



晩香廬



晩香廬

受け継がれるもの。

日本を代表する実業家、渋沢栄一翁。

その渋沢翁と清水建設との間に、

現在にまで脈々とつながる縁があることをご存知でしょうか。

渋沢翁と清水建設（当時・清水屋）との縁は、

1872年に完成した、二代喜助の設計・施工による

第一国立銀行（当時・三井組ハウスの

出来映えを渋沢翁が高く評価したことに端を発します。

二代喜助はいまも残る旧渋沢邸をはじめ

渋沢翁の私邸建設の多くを手がけ、

お抱え棟梁として重用されました。

その後、三代満之助が急逝した際の遺志により、

渋沢翁に相談役就任を依頼、

当社経営方針の原点とも言える「論語と算盤」の教えを授かりました。

これは、道理に適った企業活動によって社会に貢献し、

結果として適正な利潤を得て社業を発展させるという考え方です。

二代喜助以来恩顧を受け、三十余年にわたり

直接指導を受けてきた「論語と算盤」の教えは、

当社の社是として受け継がれ、

誠実なものづくりの精神とともに、

いまも従業員一人ひとりが立ち返る

原点であり続けています。



渋沢 栄一

